

標準委員会 リスク専門部会 津波PSA分科会
第3回津波PSA分科会議事録

1. 日 時 2011年6月14日（火） 13:30～17:25
2. 場 所 （財）電力中央研究所 本部第一会議室
3. 出席者（敬称略）
（出席委員）山口主査（阪大）、蛭沢副主査（JNES）、桐本幹事（電中研）、倉本委員（NEL）、黒岩委員（MHI）、佐竹委員（東大）、鈴木委員（原技協）、竹山委員（中電）、中井委員（JAEA）、成宮委員（関電）、平野委員（東京都市大）、藤本委員（JNES）、松山委員（電中研）、美原委員（鹿島建設）、秋山委員（CTC）、喜多委員（TEPSYS）
(16名)
（欠席委員）守屋委員（日立GE）（1名）
（常時参加者）安田（関電）、宮本（四電）、坂田（GIS）、河井(原技協)（4名）
（傍聴者）西尾（JNES）、廣川（TEPSYS）、猪野（東芝）、豊嶋（NEL）、野田（関電）
(5名)
（事務局）谷井（原子力学会）
（オブザーバ）宮野標準委員会委員長

(敬称略)

4. 配付資料

- | | |
|-------------|----------------------------|
| RK2SC 3-1-1 | 第2回津波PSA会議議事録（案） |
| RK2SC 3-1-2 | 人事について（津波PSA分科会） |
| RK2SC 3-1-3 | 津波PSA分科会 委員名簿 |
| RK2SC 3-2-1 | リスク専門部会活動状況 |
| RK2SC 3-2-2 | 標準委員会の活動状況 |
| RK2SC 3-3 | 標準委員会書面投票(反対意見内容) |
| RK2SC 3-4 | 第13回リスク専門部会での意見, 対応について |
| RK2SC 3-5-1 | 内部溢水PSAの評価イメージ |
| RK2SC 3-5-2 | 内部溢水PSA標準案(RK1SC8-2 抜粋) |
| RK2SC 3-5-3 | 内部溢水PSA分科会の活動状況他(RKTC13-4) |
| RK2SC 3-6-1 | 津波及び地震に対するフラジリティ評価の動向 |
| RK2SC 3-6-2 | 津波フラジリティ評価記載内容に関する留意事項 |
| RK2SC 3-6-3 | 論文集 |
| RK2SC 3-7-1 | 標準案 適用範囲 改訂版 |
| RK2SC 3-7-2 | 標準案 用語及び定義, 略語 |
| RK2SC 3-7-3 | 標準案 評価手順 |
| RK2SC 3-7-4 | 標準案 事故シナリオの同定 |
| RK2SC 3-7-5 | 標準案 フォーマット, 冒頭記載案 |
| RK2SC 3-8 | 津波ハザード確率論補足資料 |
| RK2SC 3-9 | 分科会主要スケジュールについて |

参考資料:

- (1) 第1回津波PSA会議議事メモ
- (2) 第2回津波PSA会議議事メモ（案）

(3) 原子力安全に関する IAEA 閣僚会議に対する日本国政府の報告書 (抜粋)

5. 議事内容

議事に先立ち、開始時点で委員 17 名中 13 名が出席しており、分科会成立に必要な定足数 (12 名以上) を満足している旨が報告された。

(1) 人事について

常時参加者について、資料 RK2SC 3-1-2 に基づいて、事務局から説明があった。届け出のあった 2 名の常時参加者 (廣川、西尾の各氏) が、出席委員全員同意で承認された

(2) 議事録確認

前回議事録について、資料 RK2SC 3-1-1 に基づいて、桐本幹事から説明があった。議事録については、事前にメールで確認が行われていたので概ね了承されたが、下記 2 点を修正し、最終版とすることとなった。

- ・ 2 頁の 3 行目。定足数 (11 名以上) との記載を定足数 (12 名以上) との記載に修正
- ・ 3 頁の 2 行目。専門化との記載を専門家との記載に修正

(3) リスク専門部会での意見、対応について

リスク専門部会の活動状況について、資料 RK2SC 3-2-1 に基づいて、成宮委員から説明があった。下記を修正することとなった。

- ・ 適用範囲のところに浮遊物という記載があるが、漂流物という記載に修正

標準委員会の活動状況について、資料 RK2SC 3-2-2、3-3 に基づいて、事務局から説明があった。

第 13 回リスク専門部会での意見、対応について、資料 RK2SC 3-4 に基づいて、桐本幹事より説明があった。下記 3 点を修正することとなった。

- ・ 考え方と方針のところのステップ 2 は標準を検討ではなく標準の改訂を検討に修正
- ・ ステップ 3 は標準を作成ではなく従来他で検討されているものの方針に従うに修正
- ・ 13 番以降の番号のずれを修正

(4) 津波ハザード確率論補足資料について

津波ハザード確率論補足資料について、資料 RK2SC 3-8-1、3-8-2、3-8-3 に基づいて、松山委員から説明があった。東電福島津波ハザード評価について ICONE で発表した論文については第 1 回分科会で JNES から紹介してもらっており、今回で津波ハザードについての文献はひととおり紹介頂いたことになる。今後土木学会のハザードを取り入れるかを含め津波 PRA 標準でのハザード評価の規定について議論してゆくこととなった。

(5) 内部溢水 PSA 分科会の現状

内部溢水 PSA 分科会の現状について、資料 RK2SC 3-5-1、3-5-2、3-5-3 に基づいて、倉本委員から説明があった。内部溢水 PSA と津波 PRA は共通するところが多いため、内部溢水 PSA 標準で取り込めるところは津波 PRA 標準に取り込んでゆくこととなった。

(6) 主要影響機器のフラジリティ評価

主要影響機器のフラジリティ評価について、資料 RK2SC 3-6-1、3-6-2、3-6-3 に基づいて、美原委員から説明があった。ハザードをどういう形でシステム解析に渡すかについては次回以降議論することとなった。浸水高さ等、用語の定義については次回以降整理することとなった。

(7) 標準案の検討

(ア) 標準案(適用範囲)について、資料 RK2SC 3-7-1 に基づいて、山口主査から説明があった。耐震重要度の低い機器、燃料プールは対象外、解説 1 をすっきりと、とのコメントに対応した。冷却機能と格納機能は維持されているという条件で評価する修文をすることとなった。

(イ) 用語及び定義、略語について、資料 RK2SC 3-7-2 に基づいて、桐本幹事から説明があった。用語の定義のうち引用規格にあるものの扱いは利用しやすいようにすることを原則として今後検討してゆくこととなった。

また、標準案フォーマットについて、資料 RK2SC 3-7-5 に基づいて、桐本幹事から説明があった。

(ウ) 評価手順について、資料 RK2SC 3-7-3 に基づいて、藤本委員から説明があった。5章以下ができた後必要に応じて見直すこととなった。

(エ) 事故シナリオの同定について、資料 RK2SC 3-7-4 に基づいて、黒岩委員から説明があった。情報収集についてそれぞれの章で書くのか、5章で書くのか、またウォークダウンについての記載をどうするかについては次回以降に検討することとなった。

(8) 分科会主要スケジュールについて

分科会の今後予定について、資料 RK2SC 3-9 に基づいて、桐本幹事から説明があった。第 4 回の技術的検討に流体力評価を追加した。また、議事録作成作業分担案を追記した。

(9) 今後の予定

第4回 6月28日(火)午後、場所は後日連絡

第5回 7月15日(金)午後、場所は後日連絡

第6回 8月1日(月)午後、場所は後日連絡

第7回 8月10日(水)午後、場所は後日連絡

以 上